

鈴木鎮一著「子供の能力の育つ原動力は何か」才能教育 171、春2010年 才能教育研究会刊を読む

「子供の能力の育つ原動力は何か」

1. 私は、ほんとうに才能教育という新しい世界を皆さんに知ってもらいたいのです。そして、その新しい常識の人となり、わが子のために、いつも大きな反省の中に、馴れない新しい教育を注意深く熱心におやりいただきたいと思うのです。
2. ヴァイオリンを熱心におけいこすれば立派になる……ということは、たしかに動かぬ事実です。これは本当のことです。
しかし、その熱心にやるのが親であって、子供自身は全く反対であるとしたら！
ヴァイオリンを熱心におけいこすれば立派になる……ということを、もう少し、ていねいに説明を加えますと、
ヴァイオリンを弾く当人が、熱心におけいこすれば……というわけです。
この、弾く当人が熱心におけいこするように、だんだんと育ててゆくことこそ、教育のうまさであり、これこそ才能教育で昔から盛んに説いている問題です。
そろそろ「能力の育つ原動力」の問題へ入ってきました。
3. 皆様、どうぞ一緒に考えてみてください。すべての能力の育つ原動力は「心」ではありませんか。「心は人の生命なり」と私はいつも、心を育てることが重要な問題であることを痛感しているのです。
4. 手を上へあげることでさえも、「心」の働きによるものである、という極めて簡単な問題の中に、決定的な大きな問題を私は感じるのです。
教育の一番の根幹となるものは何か。
と聞かれたならば、私は即座に、
心を育てることだ。
と返事をいたします。
5. そしてまた、親に課せられた、親にとって一番の重大な使命は、子供の心を育てる……という極めて重大な、しかも極めてむずかしい問題であると思うのです。
皆様、どうでしょう。
6. 親として、子供の心の育ちを立派にする、という心の才能教育が、うまく行われるならば、一番重要な親の使命を果たしたことだと思うのです。

7. 能力と、どういう関係にあるかという疑問をお持ちになる方があるかも知れませんが、手をあげること、足を動かすことでさえ、心によるものだと思えば、「心の育ちこそ能力の原動力である」ということになるのです。よく考えてみてください。子供さんがヴァイオリンをおけいこなさるにしても、絵画をなさるとしても、

おけいこをいやいややってもおけいこ

喜んでやってもおけいこ

不注意にやってもおけいこ

注意深くやってもおけいこ

感動をもってやってもおけいこ

立派にしようと思ってやってもおけいこ

今日は休んで明日やろうというもおけいこ

いやだといってなかなかにおけいこをしないのおけいこ

8. このようにおけいこにもいろいろと種類があり、心の育ちの優劣によって、同じ時間をおけいこしても、結果としてとても大きな能力の優劣の差がつくられてゆくわけです。

9. だから、すべての能力の育つ原動力は「心」であるということを改めて皆で考え、反省し、才能教育といえは、「ああ、子供の心を立派に育てるための真剣な親達の集まりか」という代名詞になるような会にしていきたいと思います。

10. ただし、ヴァイオリンを弾く心を育てるだけの研究ではないのです。毎日の生活のすべての中から、子供の心は育てゆくのですから、ヴァイオリンを弾くのに都合のいい心だけを育てようとしても駄目でしょう。

P7 ~ 8

[コメント]

ヴァイオリン教育、スズキメソッド創始者、鈴木鎮一先生の教育論。ゆっくりかみしめたい。

- 2010年3月15日 林明夫記 -